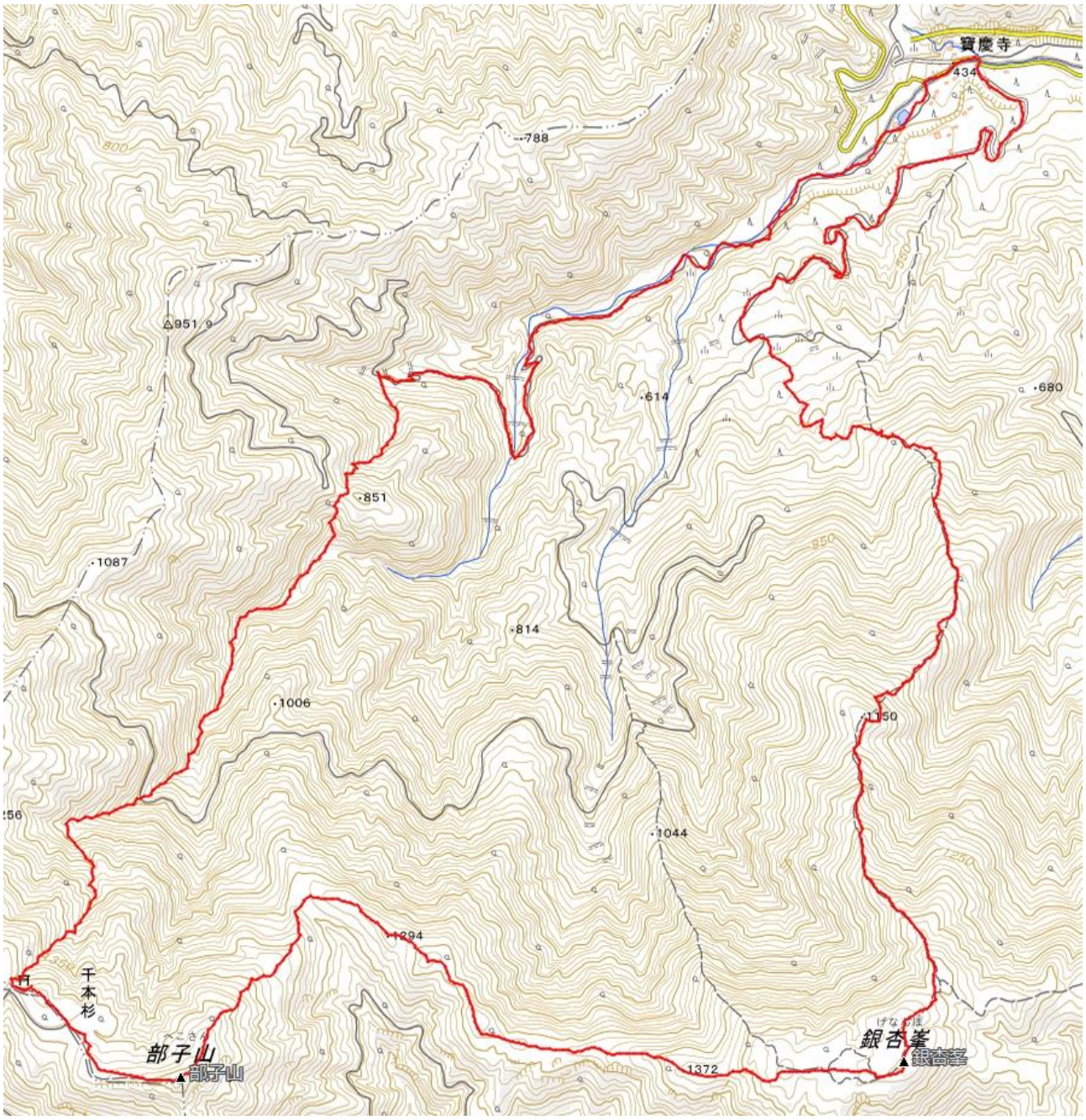
銀杏峰～部子山

【日程】２０２２年３月２１日（前日発）
【エリア】福井県大野市
【形態】山スキー
【メンバー】Ｙ、Ｏ
【報告】Ｏ



≪ルート／タイム≫

３月２１日

06:30 駐車地～09:30 前山～11:10 銀杏峰（30 分休憩）～12:40 最低鞍部(P1250)～13:30 部子山～14:10 神社跡～西割谷滑走～14:50 登り返し手前（P750）～15:50 林道接続～17:10 駐車地

≪報告≫

前日２０日に福井市内へ移動し、ビジネスホテルで宿泊をとる。今シーズンは寒波の影響により、例年以上の積雪となった。一方で、３月２週目頃からの急激な気温上昇により、雪解けも一気に進んだ感がある。

大野市において荒島岳に次ぐ名峰とも言える銀杏峰を山スキーで目指すこととした。大野市街から登山口までは約４キロ。民家から遠くない距離に山スキー愛好家にはメッカとされているエリアがあるのはうらやましい限りだ。

早朝から車が続々と集合してくる

寶慶寺付近に駐車。朝６時３０分頃から行動開始。すでに登山客、スキー客の車が続々と到着。今回のルートは名松新道から銀杏峰に上がることとした。私たちは一般登山口を離れ、しばらく林道沿いを進む。傾斜がゆるくなったところから登山道へ合流するべく、ハイクアップを開始。途中、地図上にはない林道が幾重にもカーブを描いている。

登山道合流後、幾人ものパーティや個人で銀杏峰へ向かう姿が見えた。前山（1150m）手前付近から傾斜が厳しくなり、アイゼン着用、スキーを担いでのハイクアップとなる。このあたりから荒島岳、ガスに頂上付近を覆われた白山が遠望できた。

前山を越えた付近、荒島岳が見える。奥は白山方面

１１時過ぎに銀杏峰到着。昼休憩とする。天候は曇りが続いている。稜線上ではこれから目指そうとする部子山が一時期ガスで見えなくなっていた。

銀杏峰頂上

３０分ほど休憩していると、天候が安定し晴れ間がのぞいてきた。ここからは部子山への間で最低鞍部 1250m 付近までは滑走と緩やかな登りを繰り返すルートとなる。雄大な景色のもと藪もそれほどうるさくなく、適度な滑りを楽しむことができた。

銀杏峰から部子山へ向かう稜線

翻って、銀杏峰の方向

部子山の頂上から銀杏峰の方角

コルから部子山までは２００ｍほどのハイクアップ。途中からは雪面が固くなり、再びアイゼンを履いて板を担いでピークを目指す。１４時前に到着。部子山は頂上周辺のみ雪が溶けていた。能郷白山など周辺の名峰のほか、御嶽山、中央アルプス等が望める。

神社跡の鳥居と反射板

神社横の壊れた避難小屋

ここからは程ない距離に見える神社跡と反射板の構造物を目指す。Y さんは部子山頂上からシールをはがして滑走。近づくと鳥居のほとんどが雪で覆われ、避難小屋も雪の影響かえぐれた様に中がむき出しになっていた。

私もここでシールをはがして滑走準備。神社跡の裏手からエントリー開始。西割谷の支谷から本谷に向かって約 700mの落差を滑走していく。３連休の前半に新雪が積もったのだろう。滑走の降り口は雪が固かったが、その後はエッジが効きやすい雪の状態が続いた。等高線でベロ上に伸びている斜面は斜滑降でクリアする。

西割谷を滑走する

同じく西割谷

P850 の鞍部目指してツボ足ラッセル

750m付近で扇状の緩やかな傾斜で滑走はいったん終了。降りてきた稜線を見上げると、反射板が見えていた。ここから 850mの鞍部付近を目指してツボ足で登り返す。このあたりから気温上昇で雪がグサグサの傾向に。

鞍部からは木立を慎重にツリーランで抜けていく。林道に近づくと、２か所沢筋を渡る箇所があった。１か所はスキー板を履いて横ばいで通過、２か所目は着脱して通過。やはり、この１～２週間の気温上昇でずいぶん雪が溶けてきているのだろう。

林道合流からは自動運転で楽をさせてもらえるかと思ったが、ところどころで雪が切れて路面がでている箇所や橋を渡る場所ではゆるやかな登り返しが有る等、板の着脱を数回繰り返しながら、１７時過ぎに駐車場へと戻ることができた。

最後は除雪の重機とご対面

初の銀杏峰山行となったが、部子山をはじめ稜線部の雄大な景色と山スキーならではのロングルートを体感することが出来、充実した山行となった。